

結 果 の 概 要

1 結果の要約

(1) 出生数は減少

出生数は5,685人で、前年の5,914人から229人減少し、出生率（人口千対）は7.9で、前年の8.1を下回った（全国第37位）。

合計特殊出生率は1.51で、前年の1.53を下回り、全国第9位（昨年は第5位）であった。第1位は沖縄県（1.78）、第2位は宮崎県（1.60）、第3位は鹿児島県（1.59）である。

(2) 死亡数は増加

死亡数は9,011人で、前年の8,660人から351人増加した。死亡率（人口千対）は12.5で、前年の11.9を上回った（全国第1位）。

死因別にみると、死因順位の第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位は脳血管疾患となっている。全死亡に占める割合はそれぞれ28.2%、15.4%、11.0%である。本県では平成7年以降、死亡者のおよそ3割が悪性新生物で死亡している。

(3) 自然増減数は減少

出生と死亡の差である自然増減数は $\Delta 3,326$ 人で、前年の $\Delta 2,746$ 人から580人減少し、自然増減率（人口千対）は $\Delta 4.6$ で、前年の $\Delta 3.8$ から0.8低下した（全国第45位）。本県は平成4年以降、死亡数が出生数を上回る自然減となっている。

(4) 死産数は同数

死産数は前年と同じ155胎で、死産率（出産（出生＋死産）千対）は26.5で、前年の25.5を上回った。死産率のうち、自然死産率は12.5で前年の11.0を上回ったが、人工死産率は14.0で前年の14.5を下回った。

(5) 婚姻件数は減少

婚姻件数は、3,103組で、前年の3,203組から100組減少し、婚姻率（人口千対）は4.3で、前年の4.4を0.1下回った（全国第46位）。

平均初婚年齢は夫29.8歳、妻27.9歳で、夫は前年より0.3歳、妻は前年より0.1歳上昇した（全国平均は夫30.2歳、妻28.5歳）。

(6) 離婚件数は減少

離婚件数は1,117組で、前年の1,119組から2組減少したが、離婚率は(人口千対)1.55で前年の1.54を上回った(全国第45位)。

表1 人口動態総覧

	実数			率		平均発生間隔	
	平成20年	平成19年	対前年増減	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年
出生	5,685	5,914	△229	7.9	8.1	1時間32分27秒	1時間28分52秒
死亡	9,011	8,660	351	12.5	11.9	58分19秒	1時間42秒
乳児死亡	11	13	△2	1.9	2.2	33日4時間21分49秒	28日1時間50分46秒
新生児死亡	5	6	△1	0.9	1.0	73日	60日20時間
自然増減	△3,326	△2,746	△580	△4.6	△3.8
死産	155	155	—	26.5	25.5	2日8時間30分58秒	2日8時間30分58秒
自然死産	73	67	6	12.5	11.0	5日	5日10時間44分47秒
人工死産	82	88	△6	14.0	14.5	4日10時間49分45秒	4日3時間32分44秒
周産期死亡	22	31	△9	3.9	5.2	16日14時間10分54秒	11日12時間34分50秒
妊娠22週以後の死産	19	27	△8	3.3	4.5	19日5時間3分9秒	13日12時間26分40秒
早期新生児死亡	3	4	△1	0.5	0.7	121日16時間	91日6時間
婚姻	3,103	3,203	△100	4.3	4.4	2時間49分23秒	2時間44分6秒
離婚	1,117	1,119	△2	1.55	1.54	7時間50分32秒	7時間49分42秒

	平成20年	平成19年
合計特殊出生率*	1.51	1.53

* 分母に用いた人口
5歳階級別総人口(総務省推計)

注:出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産(出生+死産)千対。周産期死亡率・妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。